

加茂桑谷発電所の放水路 エリス整備

マイクロ発電設備完成

自然エネルギー事業のエリス（岡山市南区福田）が、JAつやまの加茂桑谷発電所（津山市加茂町黒木）の放水路に整備していたマイクロ水力発電設備が完成した。今春から近くのキャンプ場に供給し、電力の地産地消モデルとして活用する。（杉本明信）

発電設備は、同発電所から出ている放水路の約40メートル下流に設置した。水流で水車（直径1・4メートル、幅1・2メートル）を回転させる「開放型下掛け水車」で、水車が回ってモーターが動き、発電する。最大出力は500ワット。総事業費は約1千万円。同社は今後、具体的



整備された「津山市桑谷エリス発電所」

今春からキャンプ場に供給

な運用方法などについて同市、JAと協議する予定。売電はせずに蓄電設備のため、市観光協会が運営する黒木キャンプ場で、使用する超小型電気自動車「コムス」の充電などに使ってもらおう。災害時の非常用電源としての活用も想定している。冬季は積雪などで設備が故障する可能性があり、稼働させない。

現地では昨年11月に落成式があり、出席したエリスの桑原順社長と谷口圭三市長が「地域循環型の設備で全国でも類を見ない。今後も低炭素都市のビジョン達成に協力したい」などとあいさつした。

同社は、ここでの取り組みが順調にいけば、電力の地産地消モデルを全国に普及させたいとしている。